

フェンシング用語

一般的なことから

1 エスクリム

フェンシングのこと。フェンシング用語では、フランス語が共通語として使用されています。

2 プール

リーグ形式の総当たり戦のこと。

3 ビスト

競技場のことで、大会では8ビストが設置される。1・2番のビストは特にメインビストと呼ばれ、各種目の決勝が行われる。(幅1.5m～2.0m、長さ14m)

4 エリミナシオンディレクト

トーナメント形式の試合のこと。

5 ファイナル

決勝戦のこと。

6 ディレクトワール・テクニク (DT)

「技術委員会」競技を実際に運営していくうえでの最高機関で大会では5名の技術委員の合議によって、試合の組合せ、競技の進行、ルール上の問題などが決定される。

7 プレジダン・ド・ジュリー

主審のこと。主審は、例えばフルーレの試合で、有効面を突いたことを示す赤と緑の両方のランプが点灯したとき、同時に無効なのか、それとも一方の選手が早く権利をとって突いたのではないかといった判定をしたり、反則を犯した選手に罰則を与えたりする。

8 アセスール

副審のこと。決勝などにおいては、主審だけでなく2名の副審をつけることもある。選手が手などを不正に使用していないかとか、エペで地面を突いたためにランプがついたのかといった判定をする。

9 略称

V「勝ち(ビクトワール)」、D「負け(デフェット)」、TD「突数(突いた数。トゥシュ・ドネ)、TR「被突数(突かれた数。トゥシュ・ルウス)」

10 バラージュ

上位進出者を決めるための決定戦。

試合の中での主審の言葉について

1 アンギャルド

試合を始めるとき主審は「アンギャルド」(構えて)と号令をかけます。そのあと、「プレ？」(用意はいいか?)と聞きます。それに対して選手は「ウィ(はい)」か「ノン(いいえ)」の返答をします。選手から「ウィ」の返答があれば、主審は「アレ」と言います。意味は「始め」です。試合を止めるときには主審は「アルト」と言います。意味は「やめ」です。

2 トウシエ

「突き」という意味です。

3 トウシエ・ア・ゴーシュ

「ゴーシュ」とは左の意味で、「左側の選手に突きが入った」ということで、右側の選手の得点となります。

4 トウシエ・ア・ドロワット

「ドロワット」とは右の意味で、「右側の選手に突きが入った」ということで、左側の選手の得点となります。

5 ノン・バラブル

「無効面」の意味で、例えばフルーレで突きが無効面に入ると白ランプがつき、得点にはなりません。

6 アタック・シミュルタネー・クードゥブル

双方の選手が「同時に攻撃」したという意味で、フルーレとサーブルの場合は、双方に色ランプがついても得点にはなりません。ただし、エペの場合は「クードゥブル」(同時突)と言って、双方に1点ずつ得点が加算されます。

7 バラード

相手の攻撃を剣で防御すること。

8 リポスト

バラードに次ぐ攻撃。

9 アヴァン・アレ

「始めの合図の前」という意味で、たとえ突きが入ったとしても得点にならず、無効になります。

10 アプレ・アルト

「やめの合図の後」という意味で、たとえ突きが入ったとしても得点にはならず、無効になります。

11 ドゥ・ザ・トロワ

「2対3」の意味で、フェンシングでは得点が入るごとに、主審は今「何対何」であるかを言います。数はフランス語を uses。

ユヌ(1)、ドゥ(2)、トロワ(3)、キャトル(4)、サンク(5)、シス(6)、セット(7)、ユイット(8)、ヌフ(9)、デイス(10)

プリミエール(1番目の)、ドゥジエーム(2番目の)、トロワジエーム(3番目の)、デルニエール(最後の)